

明治4年

ごめんください

お邪魔
しますよ？

素毛さん！

幕末に
世界一周
やってみた

12

構成 川合登志和
漫画 秋桜

ほう！
桃の花が
見事ですな

早いもので
あなたが渡米してから
十年以上経ちましたな

あちこち飛び回っていた
あなたがまさかこのような所に
引き籠っているとは！
もう吟行の旅はおやりに
ならないのですか？

弓雄さん
わしは…

山崎弓雄
高山の国学者であり
素毛の和歌の師でもある





くらいやましやでん
位山社殿の騒をふみ分けて
いつ可座らん言葉の道

やっぱりわしは
歌の道に生きていきたい
歌の道に登りつめたい
やってやる！

明治四年三月
素毛は再び
吟行の旅に出る

決意を胸に旅立った素毛は
西に進み様々な人に出会った

わしの所属する
獅子門（美濃派）は
松尾芭蕉の門下生だった
各務支考の風に習う
俳人の一派でな
全国に門下の
同人がいたの
で彼らを訪ねつつ
旅をしたんじやよ

阿蘇では数日に渡り
句会を開いたんじやよ
歌いだしの句をわしが作り
一門の皆はとんちの効いた
やり取りをして盛り上がった

は…
初恋？！

大宮阿蘇社では
八十九代目の神主さん
にお礼をもらったり

長崎では足で絵を描く
人を見かけたり…

神主
初恋

タンク

落款は
押すかーい

明治五年

高山に伊勢の歌人
佐々木弘綱どのが?!

佐々木弘綱
佐々木信綱の父で
伊勢の国学者・歌人

高山の役人・富田礼彦に
呼ばれて高山から古川を
廻っていた

素毛は富田礼彦らとともに
ふたたび高山に戻ってきた
弘綱を出迎えた

弘綱は高山で歌会を開いたり
源氏物語の講義などをしていたが
素毛もその会によく顔を
出していた

弘綱の送別会

私は先生に触発されて
和歌の道にすすみました
でももし迷うことがあったら
先生の教えを思い出して
前を見て歩こうと思っています…

迷ってもいいつまずいてもいい
でも進みなさい
あなたが長い間かけて辿った道は
無駄なことなど一つもありませんよ

ひとつの道を積むというのは
困難で時に迷うこともあります
それはあなたが歌の道に真摯に
向き合っているからでは
ありませんか?

先生…
ありがとうございます…



でも四日市で
異人のサーカスも
見たんじゃないよ!

しかし
西国の情勢が不安定となり
大阪から引き返すことに



その年の秋
素毛は再び長崎を目指し
吟行の旅に出る

よしっ!
行くぞ

このとき素毛
御年四十八才

歳は
言わんでいい!



翌年(明治六年)には
京都へ吟遊に赴き
素毛の絵の師匠であった
鉄翁和尚の計報を知り
京都で追悼書画展を開いた

鉄翁和尚のおかげで
わしは多くの詳細な
記録を描くことができた
わしの旅はとても有意義な
ものになった...

ありがとう
鉄翁和尚...

素毛は鉄翁和尚の遺髪を
地元の玉龍寺へ納めた

この年までに
素毛の交遊した人は
なんと三千人にのぼった



明治七年
大阪

おお!

いよいよ日本にも
火車(蒸気機関車)が
走るんじゃない!

パナマで乗った火車は
振動と音がすさまじかったが
この火車は極楽じやのう!

明治四年に断髪脱刀例が發布
明治六年には明治天皇が断髪した
事に続いて鬚を落とす人が増えた



なみた みよ ちぎ とこし
波立たぬ御代に契りて長へに
かけ渡したる飛美の大橋...

しかし橋の名も石碑の建立も
素毛の希望は実現することなく
五月十二日
素毛は五十五歳でこの世を去った

幼いころから俳句をたしなみ
遣米使節に同行して世界一周を成し
煙霞のように自由に生きた人生だった

令和二年
素毛が旅立って
百四十年が過ぎた

故郷の下原村は現在
下呂市金山町となっている

金山町の小学校では
加藤素毛についての学習がある

アメリカ合衆国アラスカ州の
ケチカン市と姉妹都市となり
日本語を教えたり英語を学んだり
交流が盛んにおこなわれている

これもひとえに
わしの遺したものが
大きいという事じゃな！

誰?!

ヒョイツ

わしのことを
「画を描いて大家にあらず
俳句を作って一流にあらず」
と言った人もおった
公式な記録を
残したわけでもない

それでも数えきれない人と交流し
世界一周の旅もかなえ
わしの遺したものが現代の人に
大きな影響を与えているのは
確かじゃ

外へ出よ！旅に出よ！
たくさんの人と会って
たくさんさんのものを見よ！

どうか
良い人生を！

現代は世界に発信する
ツールが沢山ある
今は目立たなくとも
未来の人に誰かの人生に
影響を与えることが
あるかもしれない

おまけ

素毛にはこんなエピソードがある
とある句会での題材がヒバリで
あったときに

片手を挙げてヒバリのマネをしたり



句会の最中に…

…と放屁したり
飄逸な性格であつたそうです
人を楽しませるのが好きだったんですね



わしが永遠の旅に出た
明治十二年は丁度神仏分離の
時代で仏葬ではなく神葬で葬られた
だから当時は墓標もなかったんじや
今は金山町の玉龍寺に墓があるので
わしに会いに来てほしい

玉龍寺は歌人・柳原白蓮が滞在
したところもある寺でな
実は柳原白蓮は遣米使節団の
正使・新見豊前守様の孫に
あたるんじやよ
不思議な縁を感じるのう



【取材協力】
下呂市金山町
加藤素毛記念館
東善寺

【資料閲覧】
加藤素毛自筆本 岐阜県図書館
加藤素毛遺品 加藤素毛記念館

- 【参考図書・論文等】
「万延元年遣米使節史料集成 第3・6・7巻 日米修好通商百年記念行事運営会／編 風間書房」
「加藤素毛略伝」 熊原政男／著 加藤素毛先生顕彰会
「航海日記」村垣淡路守範正／著 時事通信社
「加藤素毛『航海詩文解説』」 片田 早苗／解説 下原古郷の会
「桃の旅」 雲芝庵／著
「遣米使節団随員、加藤素毛の旅人生」 吉村 侑久代／著 日本英学会・東日本支部
「アメリカで味わった初めての西洋料理」 吉村 侑久代／著 日本英学会・東日本支部
「加藤素毛世界一周の記録」 加藤素毛記念館／編 加藤素毛記念館
「日本初の外国(外遊)俳句作者」 吉村 侑久代／著 日本英学会・関西支部
「万延元年遣米使節と加藤素毛・益頭駿次郎・佐野鼎」 磯部博平 ほか／著 磯部出版
「加藤素毛さま 郷土の偉人」 長瀬茂樹／著
「ふるさとの先人加藤素毛の生涯とその時代」 清水成晃／編
金山町史
紙芝居「もうさんアメリカに行く」下呂市
「万延元年の遣米使節団」 宮永 孝／著 講談社
「万延元年のアメリカ報告」 宮永 孝／著 新潮社
「7人の侍アメリカへ行く」 服部逸郎／著 講談社
「万延元年遣米使節航米記」 木村 鉄太／著 熊本日日新聞社
「万延元年遣米使節図録」 田中一貞 編(国立国会図書館デジタルアーカイブ)
「チャリ子大曲馬御遊覧の図」 楊洲周延／著(国立国会図書館デジタルアーカイブ)
「大阪府写真帖」 大阪府(国立国会図書館デジタルアーカイブ)
「小栗忠順従者の記録」 村上 泰賢／編著 東善寺
「小栗上野介」 市川光一・村上泰賢・小坂橋良平／共著 みやま文庫
「遣米使節三船」 東善寺
「小栗忠順研究」 渡邊 寛
「開成をつくった男、佐野鼎」 柳原 三佳／著 講談社
「海を渡った侍たち」 石川 栄吉／著 読売新聞社
「我ら見しまに 万延元年遣米使節の旅路」 マサオ ミヨシ 著 平凡社
「ハワイ・ブック」 近藤 純夫／著 平凡社
「イザベラ・バードのハワイ紀行」 イザベラ・バード／著 平凡社
「少年通訳アメリカへ行く」 松永 義弘／作 PHP研究所
「ミイラ事典」 ジェームズ・パトナム／著 あすなろ書房
「モリス信号のアメリカ史」 松田 裕之／著 日本経済評論社
「君はトミー・ボルカを聞いたか」 赤塚 行雄／著 風媒社
「サムライ、ITに遭う」 中野 明／著 NTT出版
「スミソニアンは何を展示してきたか」 A.ヘンダーソン／編 玉川大学出版部
「機関車・電車の歴史」 山本 忠敬／著 福音館書店
「アメリカの鉄道史」 近藤 喜代太郎／著 成山堂書店
「アメリカ鉄道創世記」 加山 昭／著 山海堂
「爬虫類と両生類の写真図鑑」 マーク・オシー／共著 日本ヴォーグ社
「パナマを知るための60章」 国本 伊代／編著 明石書店
「機関車の歴史 北米編」 スティーブ・バーリー／著 スタジオタッククリエイティブ
「図説アメリカ大統領百科」 DK社／編 原書房
「幕末明治古写真帖」 新人物往来社
「世界毒草百科図鑑」 エリザベス・A.ダウナー／著 原書房
「世界の飛行機」 リッカルド・ニコリ／著 河出書房新社
「航空機」 スティーブ・パーカー／著 評論社
「世界の軍装図鑑」 クリス・マクナブ／著 創元社
「図説軍服の歴史5000年」 辻元 よしふみ／著 彩流社
「ジョン・タリスの世界地図」 モンゴメリー・マーティン／編 同朋舎出版
「ペリーとともに 画家ハイネがみた幕末と日本人」 ハイネ／原著 三一書房
「サンフランシスコ」 ガリマール社／編 同朋舎出版
「咸臨丸太平洋を渡る」 横浜開港資料館／編集 横浜開港資料館
「『咸臨丸難航図』を描いた幕府海軍士官」 栗宮 一樹／著 文芸社
「世界史モノ事典」 平凡社／編 平凡社

【参考インターネットサイト】
東善寺ホームページ
長崎大学付属図書館幕末・明治期日本古写真メタデータ・データベース
在ニューヨーク日本国総領事館広報センター
一般社団法人 万延元年遣米使節子孫の会
水無神社
高山市ホームページ